

N I Eを活用し、自分の意見を持ち、表現する力を育む実践

国富町立八代中学校
教諭 柿木 一 光

1 はじめに

北は西都市、南は綾町に境を接し国富町の最北西部に位置する本校は、八代小学校より進学してくる生徒数 55 名の学校である。校区が非常に広く、1 時間かけて通学してくる生徒もいる。ボランティア活動が非常に盛んで、毎週水曜日の朝のボランティア活動や「1」のつく日のあいさつ運動などを行っている。

2 N I E実践内容

(1) 学校としての取組

- ・ N I E 独自認定校となったことで配付される新聞 2 部を、学校の全学年が閲覧することのできる多目的ホールに設置したことで、休み時間等に生徒達が閲覧している様子がみられた。
- ・ 新聞の切り抜きを掲示している。教師が注目してほしい記事などを抜粋し、生徒の目に入りやすいよう、大きく拡大し、新聞と同じく多目的ホールに設置した。

(2) 実践事例

① 多目的ホールでの新聞の掲示

ア 新聞ステーション

新聞記事を多目的ホールに掲示している。【写真 1】全学年閲覧可能なエリアになっており、毎朝ボランティアで、新聞を閲覧場所に設置している。前日分の新聞は、空き教室の新聞ストック場所に置き、一定期間自由に読めるようにしている。



【写真 1 多目的ホール】

イ 気になるニュースの掲示

生徒の興味・関心を引きつける記事を中心に、社会でどんなことが起きているかを知ることで、社会的事象に対して興味をもってもらうため、特に話題となったニュースや、興味を抱いて欲しい内容などを中心に切り取り、掲示している。【写真 2】



【写真 2 新聞切り抜き】

② 授業における新聞の活用

ア 社会科での活用

全学年で、新聞記事の紹介を積極的に行っている。特に、授業の導入段階では、紹介したい記事をプレゼンテーションソフトに取り込み紹介している。

- (例) 3 年生 公民的分野 『夫も産休創設へ』
1 年生 地理的分野 『コーヒー豆』



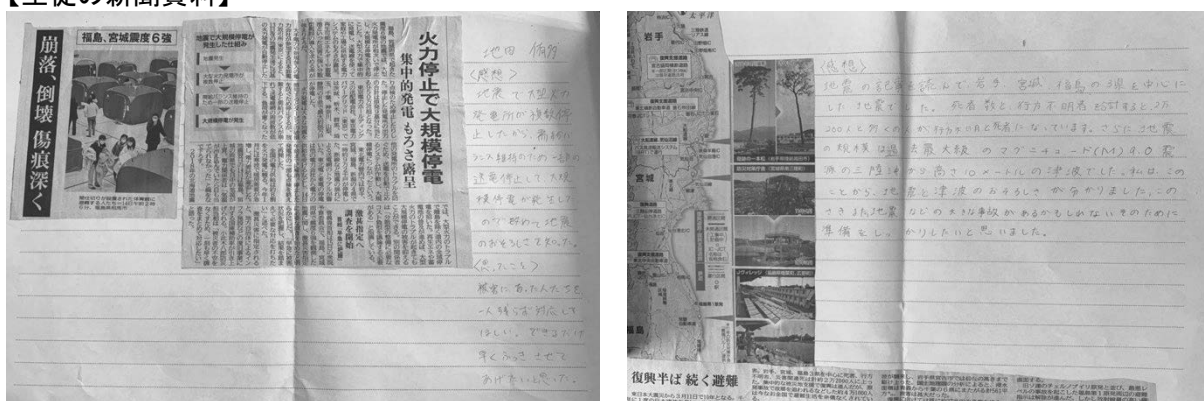
【写真 3 夫も産休創設へ】

また、テスト問題への活用を行った。特に、各定期テストにおいて、社会的事象への関心・意欲・態度に関する問題を出題している。出題する問題として、授業内で紹介した記事や生徒に知ってほしい記事、生徒自身が興味関心を持った記事問題を作成している。定期テストを重ねるごとに、社会的事象への関心・意欲・態度の向上が見られた。

例として、3学年では、新聞を使用し、年金制度の問題解決方法を探る授業をおこなった。めあては「充実した老後を送るために、どのようなことが必要だろうか」に設定し、グループで新聞記事を読み取り、解決方法を探る授業を行った。【指導案1】

次に、1年生では、SDGsについて理解するために、新聞記事の中からSDGsを見つける授業を行った。まず、SDGsについて学習した後、自分の興味のある新聞記事を切り抜き、記事についての感想や意見を書かせた。その後、気になった文章に線を引き、SDGsに関連していることを見つける授業を行った。

【生徒の新聞資料】



【この活動における生徒の感想】

- SDGsがどういうことなのか勉強することができた。そして新聞を活用することで、社会でどのような取組が行われているのかわかった。
- 新聞の文章からSDGsを探すことで、私達ができるSDGsの取組みについて参考になった。

イ 社会科以外の授業での活用

本校では第1学年の国語科で新聞を使用し、自分自身の新聞を作成する授業を行っていた。

③ 新聞コラムの感想を書く取組

宮崎日日新聞社紙面関連委員会からの「教育連載における生徒の感想提供のお願いについて」毎月提出をしている。本校の生徒の中にも感想を紹介された生徒が多くおり、その紹介された新聞を全校生徒が目にする場所に掲示することで、この取組への関心が高まった。

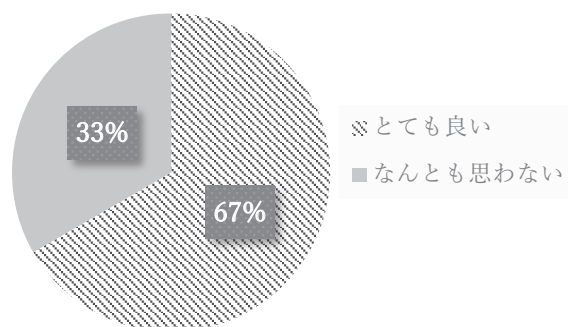
(3) 実践前後の変化、実践の感想、今後の課題

① 生徒がNIEに対してどのような感想をもったか。

生徒にNIEについてアンケートを行った。『新聞を読んで自分の勉強になったと思うことはあるか』という質問に対して、生徒は次のように答えていた。

- ・新聞を読むことによって、文章を書くことに慣れることができた。
- ・新型コロナウイルス感染影響の新聞記事を見て、社会にどんな影響があるのか知れた。
- ・最近の情報や、知りたい事などが書いてあり、勉強になった。

新聞が掲示されていることに対してどのように思うか？



新聞を学校全体で活用することへの肯定的意見も多く見られた。また生徒の感想の中に、新聞をとおして友達とコミュニケーションを図ることができたという記述があり、生徒同士の関係に対してもいい影響を与えることができた。

③ 実践者感想・反省点や課題となる事項

手探りの状態で、NIEについて勉強しながら、実践を行ってきた。本校の先生方の協力なしでは、できなかったと感じている。反面、授業における新聞の活用では、授業を構想する際に新聞記事をどのように組み込むか考えるのだが、「新聞を教える授業」になってしまったと反省している。新聞を使用することは生徒達の興味・関心を引く上で効果的ではあるが、授業を通して、生徒達が新聞からどのようなことを読み取り、どのようなことを学習するのかというゴールを明確にして、授業を構想していくことが大切であると考え。また、活字に対して読み取ることが難しい生徒に対してなんらかの手立てを講じていく必要があると考え。

次に、学校全体の取組では、「新聞ステーション」を設置して、生徒達が新聞を見る機会は多くなっていったが、実際に新聞の内容まで読み、吟味しているかという点、そうではないように考える。そのため、教育的効果を上げて行くためには、設置するだけでなく生徒達が楽しんで新聞に触れ、内容を読むような仕掛けを行っていききたい。

最終的には、生徒達が新聞ステーションで、新聞を読み、自分の意見を友達と共有し、社会的事象について関心を持ち、自分自身の意見を深めることができるようにしていきたい。

今後も、成果のみられた取組を継続しつつ発展させ、新たな取組を思考錯誤し、挑戦していきたい。

1 単元名

財政と国民の福祉

2 目標

- 国や地方公共団体の経済活動に対する関心を高め、それを追究し捉え、自分自身の将来について考えることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- 社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障制度の充実、租税の意義と役割及び国民の納税の義務について理解することができるようにする。(知識・理解)
- 国や地方公共団体の経済活動に関する様々な資料・新聞を収集、選択し活用することができるようにする。(技能)
- 国や地方公共団体が果たしている経済的な役割や財政について多面的・多角的に考察し、国や地方公共団体の経済活動のあり方について、様々な観点や立場から公正に判断し、表現することができる。(思考・判断・表現)

3 指導計画(全6時間)

1 財政のはたらき	1時間
2 国の収入を支える税と国債	1時間
3 景気の動きとその対策	1時間
4 社会保障のしくみと財源	1時間
5 少子高齢化社会における福祉の充実	1時間・・・本時(1/1)
6 環境保全の担い手としての政府	1時間

4 本時の学習指導

(1) 本時の目標

- 少子高齢化社会において、社会保障制度の課題を理解し、それを活用しながら、持続可能な社会保障制度について考え、表現することができる。(思考・判断・表現)

(2) 目標に迫るための具体的な取組

- 授業の視点とその手立て

授業の視点(県のチェックポイント)【CP】
1 子供の実態に基づき、単元末や学期末の「学びの見届け」や学年末の「学びの確認」により、定着や習熟を図る時間の確保が計画的に行われているか。
2 授業内容が精選されており、テンポや間に配慮して授業を進めているか。
3 授業の内容は子どもの実態にマッチしているか。
4 教師の指示や発問は的確で、子どもに伝わっているか。
具体的手立て
1 理解確認・振返りの時間を確保する。
2 個人思考の場面で教師は話しかけない。
3 各生徒の実態に応じた資料を準備する。(新聞の活用)
4 端的に分かりやすく発問する。
○ 個に確実に返すための手立て
具体的手立て
・ 授業終末に自分でまとめをつくらせる。
・ 本時の内容の分かったことや疑問に思ったことについて、ワークシートにまとめる。

(3) 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点【CP】(☆教師評価★自己評価)	資料準備
導入 5分	1 「人生100年時代、老後2000万円」の新聞記事を読む。 2 本時のめあてを提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">(めあて)充実した老後を送るために、どのようなことが必要だろうか？</div>	○ 感想を発表させる。【CP3】	TV 新聞
展開 35分	3 なぜ、2000万円必要なのか考える。その際、資料1(年金制度の仕組み)を読み取らせる。 4 介護保険について理解する。 5 めあてについて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">(ポイント) ・資料2・3を読み取り、個の考えをもつ。 ・集団で互いの考えを出し合いつつ資料3・5を参考に考えを構築する。 ・「政府」「個人」の視点にたって考える。</div>	○ 少子高齢化による社会保障制度の課題について理解する。 ○ 資料1の読み取りが難しい生徒については、支援を行う。 ○ 介護保険の制度もあり、社会保障を充実させるためには必要だが、負担が大きくなることを理解させる。 ○ 資料を提示する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">資料2(個人で加入する保険) 資料3【新聞】(個人資産の運用) 資料4(他の外国の年金制度) 資料5【新聞】(年金制度への政府の施策)</div> ○ 個人思考の際に、資料2・4を読み取らせ、グループ思考の際に資料3・5を参考に考えさせる。【CP2】 ○ グループ思考では、4班のうち2班を「政府」の視点から、残り2班を「個人」の視点から考えさせる。	資料1 教科書 新聞 ワークシート
終末 10分	7 本時の内容のまとめを行う。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 5px auto;">(まとめ)「個人」:自分で老後のことを考え、資産運用や、病気にそなえるなどの自助努力をしていかなければならない。 「政府」:公的年金を負担と給付のバランスを考え、公正な制度を考えていく必要がある。</div>	○ 個人でまとめを行う。	ワークシート
	8 本時の内容を振り返る。		

(4) 板書計画

